

勝山市総合行政審議会（第12期第2回）結果概要

- 開催日時 平成24年9月18日（火） 午後7時～午後9時15分
- 開催場所 勝山市役所3階 第1会議室
- 出席者等 出席委員 12名
事務局 企画財政部未来創造課

1 会長あいさつ

2 審議

- (1) 平成23年度勝山市政策基本目標外部評価について

【質疑応答】

111. 市民の市政への参画推進 内部評価5 ⇒ 外部評価5（－）

●委員

- ・「さまざまな女性グループとの対話推進」において、1回実施では「さまざまな」とはいえないのではないか。

○事務局

- ・コアとなった団体は、県外出身の女性団体だが、福島県からの一時移住者も交えて実施した。「県外から見た勝山市」をテーマに市長と話してもらう機会となり、その中で出た意見が平成24年度の施策に反映された。

●委員

- ・内部評価は5だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

112. 市民活動の推進 内部評価4 ⇒ 外部評価4（－）

●委員

- ・市民学芸員制度は平成24年度から始めるということでよいか。

○事務局

- ・ジオパークガイドやエコミュージアム協議会などのベースとして、ふるさと検定を位置付けるよう制度設計を現在実施中。

●委員

- ・市民アンケートはどのように実施するのか。

○事務局

- ・平成27年度には抽出方式でアンケートを実施して総合計画の進捗状況を確認し、平成32年度には全市民アンケートを実施して、第5次総合計画の達成度を調査するとともに次期計画に反映させる予定。

●委員

- ・アンケートを実施する際には、国勢調査と合わせて実施する機会が多いが、この場合はどう

か。

○事務局

- ・計画策定時には国勢調査の結果を踏まえているが、アンケート実施年度は総合計画の計画期間をベースにしている。

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし。

113. 広報の充実 内部評価5 ⇒ 外部評価5 (一)

●委員

- ・内部評価は5だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし。

114. 情報公開の推進 内部評価4 ⇒ 外部評価4 (一)

●委員

- ・審査案件はなかったものの、利便性を高める制度改正等を実施していることから、内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし。

121. 行財政改革の推進 内部評価5 ⇒ 外部評価5 (一)

●委員

- ・実施していない項目があっても、評価が高いのはなぜか。

○事務局

- ・「勝山市行財政改革大綱」および実施計画の改定については、平成24年度に実施しているので、平成23年度評価としては対象外としている。

●委員

- ・予定していたが未実施だったのか、実施年度が違うので評価対象外なのか分かるようにしてほしい。

●委員

- ・内部評価は5だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし。

122. 効率的、効果的な財政運営 内部評価4 ⇒ 外部評価4 (一)

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし。

123. 公平・適正な税政運営、適正な公共料金の設定 内部評価5 ⇒ 外部評価5 (一)

●委員

- ・内部評価は5だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし。

124. 公共施設の効率的運用 内部評価5 ⇒ 外部評価5 (一)

●委員

- ・内部評価は5だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし。

125. 行政組織の効率的運用 内部評価4 ⇒ 外部評価4 (一)

●委員

- ・障がい者雇用促進について、勝山市の採用状況は他市と比べて高いのか。

○事務局

- ・県内平均雇用率よりは低いが、法定雇用率はクリアしている。

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし。

126. 広域行政の推進 内部評価3 ⇒ 外部評価3 (一)

●委員

- ・「奥越圏域全体のごみ排出量削減」について、実際はごみ排出量が増えたのだから、最低限の成果があったとはいえないのではないか。

●委員

- ・施策内の他の重点項目の実施状況との総合的な評価なのか。

○事務局

- ・ごみ排出量だけを見ると評価はもっと低くなると思うが、他の項目の取組結果も踏まえて総合的に評価している。

●委員

- ・ごみ量削減の取り組みはしているか。

○事務局

- ・現在は人口割りで広域ごみ処理の負担金配分をしているが、搬入割りを導入することで、ごみ量削減にもっと積極的に取り組む動機付けになると考えている。他に、広報紙やチラシ等での啓発とともに、各種助成を実施したが、結果としてごみ量が増えた。

●委員

- ・県外ではゴミ袋の値上げをしたことにより市民意識が高まり、ごみ量の削減につながった事例もある。他に、古紙回収などの資源回収を積極的に実施している。

○事務局

- ・ごみ分別については他市と比べて徹底しているほうで、リサイクルにも積極的に取り組んでいる。PTAが実施している廃品回収には助成金を出すなど、ごみ回収率を高めている。

●委員

- ・県外では、業者が古紙回収した際にティッシュと交換するなど、回収率を高める努力をしている。リサイクルに向かう方策がまだまだ少ないのではないか。

○事務局

・廃品回収などでは、回収した資源ごみを業者に買ってもらって、地域に還元している。

●委員

・一昔前までは「生ゴミは畑で処理する」だったが、回収体制が整ったので簡単に一般ごみとして出してしまっている。将来的な問題でもあるので、市民に対する啓発をもっと検討してほしい。

●委員

・生ごみ処理機の購入補助金があるが、その効果の検証がされてないのではないか。今は使っていない家庭もあるので、しっかりと検証してほしい。

●委員

・内部評価は3だが、これでよろしいか。

●委員

・異議なし。

●委員

・ごみは将来的に大きな問題となる事項であるので、今後さらにごみ削減の努力をしてほしい。

131. 恐竜を活かしたまちづくり（恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク） 内部評価4 ⇒ 外部評価4（一）

●委員

・ジオツアーには予想を大きく上回る参加者があったが、一部でも移住に繋がる動きがあったのか。

○事務局

・ジオツアーは勝山の良いところを知り楽しんでもらうために、観光誘客として実施している。移住を目的としているわけではない。参加者が市内施設で買い物や食事等をしていただくことで、経済効果があると思っている。

・ジオツアー参加者はツアー料金を支払って参加しているので、一定の地域経済効果はあったと考えている。

●委員

・施策指標の数値設定に課題があるように思う。計画段階である程度の見込みが分かるはず。設定した目標値が低かったのではないか。

○事務局

・平成23年度は初めて民間にツアー開催を働きかけたのだが、実施そのものも不透明であったことから、勝山市が主催した平成22年度のツアー参加人数を基本として目標設定をした。結果として、民間が主催したジオツアーに予想を超える参加があった。

●委員

・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

・異議なし。

132. 国際交流の推進 内部評価4 ⇒ 外部評価4（一）

●委員

・施策指標の数値は、勝山市からアスペン市へ派遣した人数でよいか。目標の半分しか参加し

ていないが、理由があるのか。

○事務局

- ・隔年で交互に受入を行っており、平成23年度は、勝山市からアスペン市に派遣した人数。応募はもっとあったのだが、新型インフルエンザの影響から直前でのキャンセルがあったり、家庭の事情等によるキャンセルがあったりした。

●委員

- ・派遣に係る補助はあるのか。

○事務局

- ・外郭団体であるアスペンクラブに事業補助をしている。渡航費用は自己負担だが、交流に係る費用はアスペンクラブが負担している。また、市のCIRが同行している。

●委員

- ・風景や地形などが似ている都市であることから交流が始まったと聞いているが、アスペン市との交流はかなり前から実施しており、その成果はどう考えているのか。

○事務局

- ・受入や派遣の人数は相当数にのぼる。多感な中学生、高校生の時に、外国で活動したり外国人を受け入れたりすることで、子どもたちの大きな財産になったと思っている。また、アスペン市との交流そのものが、勝山市のイメージアップに繋がり、効果があったと考えている。

●委員

- ・人材育成に繋がったと考えられる。

●委員

- ・アスペン市は風光明媚な観光都市として有名。交流をすることで、アスペン市の良い所を学ぶ予定だったのではないかと。そういった成果はあるのか。

○事務局

- ・勝山市が世界で9番目にクリーンな都市として選ばれ、エコ環境都市を目指すきっかけとなったのは、早い段階からよく似た景観や環境をもって先進的な取組をしているアスペン市を目標にしてきた結果だと思っている。

●委員

- ・以前はアスペン音楽祭が開催されていたが、現在はどうなっているのか。

○事務局

- ・数年前からコンサートは中止している。アスペン市との交流では、成果もあったが、反省点もあったと思っている。アスペン市との距離の問題や、アスペン市は相当に高いレベルの観光都市であったことから、勝山市として背伸びしすぎた感がある。アスペン市との交流そのものについて、判断の時期が来ていると考えている。

●委員

- ・日中友好事業は以前から取り組んでいたのではないかと。

○事務局

- ・中国との交流は越前大仏が縁で、日中友好協会が中心となって行っていた。しかし、越前大仏の経営問題がもとで約10年前から活動を中断している。越前大仏が宗教法人として活動が活発になってきたことから、中国との交流を再開すべく、平成24年度に市長、議長が訪中している。

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし。

133. 都市間交流（国内）の推進 内部評価5 ⇒ 外部評価5（一）

●委員

- ・内部評価は5だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし。

134. ふれあい市民との交流 内部評価5 ⇒ 外部評価5（一）

●委員

- ・「ふれあい市民」と「ふるさとサポーター」の違いは何か。

○事務局

- ・同じもの。第5次総合計画策定の際には、市外県外に出た勝山市民で勝山を応援してくれるかたの名称を「ふれあい市民」としていたが、分かりにくいということで、「ふるさとサポーター」に名称変更した。

●委員

- ・内部評価は5だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし。

135. Uターン・Iターンの推進 内部評価3 ⇒ 外部評価4（一）

●委員

- ・勝山市としてさまざまな交流活動を実施しているが、来ていただいた人に勝山を好きになってもらって、最終的な目標として勝山市への移住を目指しているのだと思うが、移住者が5人というのは少ないのではないか。
- ・交流によって勝山の良い所を知ってもらうことが大切。お金をかけて交流だけしているのでは問題だと思う。

○事務局

- ・一言で交流といっても、その目的は事業によってさまざま。田舎暮らし体験やワーキングホリデーでは、農業の振興や農作物の評価向上、体験を通じた移住促進など。ジオツアーでは観光誘客による地元経済の活性化など。全ての交流活動が移住定住に繋がっているわけではない。

●委員

- ・移住については、人数のみならず移住者の質も評価対象に入れるべきではないか。移住者が生産年齢であるか高齢者であるか、あるいは介護者であるかで、勝山市への貢献度は大きく変わってくる。

●委員

- ・そこまで評価の判断をするのは難しいのではないか。

○事務局

- ・移住者はリタイア世代が多い。夫婦で来られたり、二地域居住で来られたりと、形態はさま

ざま。

●委員

- ・人口2万5,000人の小さなまちに、5人ものかたが移住してくれた。かなり多い数字だと思う。行政の努力の跡が見られる。

●委員

- ・内部評価は3だが、外部評価は4でよろしいか。

●委員

- ・異議なし。

136. 官学連携事業の推進 内部評価4 ⇒ 外部評価4 (一)

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし。

141. 男女がともに思いやり責任を担い合う社会の実現 内部評価3 ⇒ 外部評価3 (一)

●委員

- ・男女共同参画審議会で議論したが、審議会等への女性委員の登用割合が増えるどころか、減ってしまっている。最低限の成果があったと評価しがたいのではないか。

○事務局

- ・各審議会等委員の改選が毎年あるわけではない。改選に合わせて制度改正の努力はしているが、全体的には時間がかかるため、タイムラグがあることをご理解いただきたい。参考までに、平成24年度では29.6%まで上がっている。
- ・委員選任基準のなかで、充て職によって委員を決める審議会等があるので、比較的自由に人選できる審議会と充て職により決まっている審議会とに分けて、次年度は評価したい。

●委員

- ・内部評価は3だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし。

142. 人権尊重の社会づくりの推進 内部評価5 ⇒ 外部評価5 (一)

●委員

- ・内部評価は5だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし。

151. 市民が主体となった地域力の向上 内部評価4 ⇒ 外部評価4 (一)

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし。

211. 健康づくり活動の推進 内部評価4 ⇒ 外部評価4 (一)

●委員

- ・健康寿命の目標が平成22年度と比べて低いのはなぜか。

○事務局

- ・年次目標は第5次総合計画策定の際に決めたもの。策定から5年後の平成27年度、10年後の平成32年度に向けた中長期的な目標を基に、年次目標を設定している。

●委員

- ・施策指標は、県平均と比べたものにした方がよいのではないか。全国平均や県平均と比較して、勝山市の状況はどうなっているのか。

○事務局

- ・比較による施策指標の設定については検討する。

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし。

2 1 2. 保健サービスの充実 内部評価4 ⇒ 外部評価4 (一)

●委員

- ・日常的に通院している人は、がん検診に行かない。定期的な検査を行っているので、がん検診は不要と考えている。

○事務局

- ・国民健康保険加入者を対象としている。それ以外のかたの受診率は把握できないため反映されない。また、医療機関等で自ら検診したかたも把握できない。

●委員

- ・通院による検査では、身体全体を検査するわけではないので、受けてない検査項目で病巣が見つかることがある。まずは、がん検診を受診していただけるよう啓発する必要はある。

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし。

2 2 1. 高齢者の自立支援の推進 内部評価4 ⇒ 外部評価4 (一)

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし。

2 2 2. 高齢者介護体制の充実 内部評価4 ⇒ 外部評価4 (一)

●委員

- ・介護サービス利用率が平成22年度と比べて減っている。

●委員

- ・自助努力によって利用率が下がったのか、利用できるサービスがないので下がったのか分からない。

○事務局

- ・介護サービス利用率についても、分母が小さいため年度ごとの変動率が高く、施策指標として適当ではない部分がある。

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし。

223. 高齢者総合相談・支援の充実 内部評価4 ⇒ 外部評価4 (一)

●委員

- ・地区サロンで成年後見制度の周知を図っているが、実績として2地区だけでは効果があったとはいえないのではないか。

○事務局

- ・各地区サロンに問い合わせた結果、2地区が手を挙げてくれた。今後は地区サロンだけでなく、関係団体でも周知を図っていく。

●委員

- ・施策指標以外にも数値目標があるところは、数値目標を示してもよいのではないか。

○事務局

- ・検討したい

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし。

231. 障がい者福祉の充実 内部評価5 ⇒ 外部評価5 (一)

●委員

- ・内部評価は5だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし。

232. 生活困窮者への支援 内部評価5 ⇒ 外部評価5 (一)

●委員

- ・内部評価は5だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし。

233. 地域福祉施策の充実 内部評価4 ⇒ 外部評価4 (一)

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし。

以上